

どうぞ  
**道後地区**

面積：2.1 km<sup>2</sup>  
人口：11,394 人（高齢化率 23.5%）  
世帯数：5,180 世帯

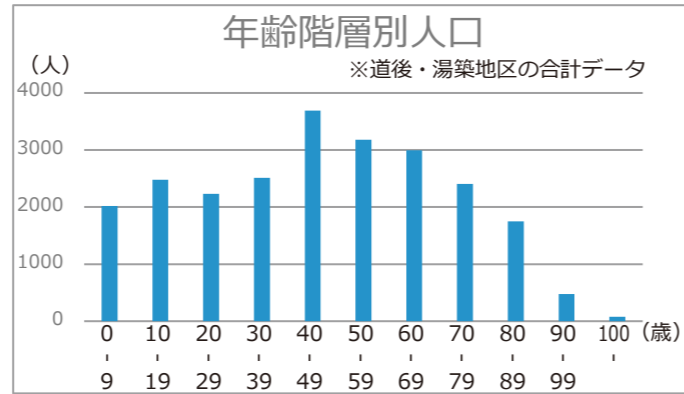


**【地区の特色】**

道後地区は、政治、経済、文化の中心として古くから発展しており、まさに「道後温泉」の名を冠とした歴史と文化の由緒ある地区名である。道後温泉本館の南東の方角に中世後期に伊予国を支配した河野氏の湯築城跡や子規記念博物館がある道後公園、また、東に四国八十八ヶ所 51 番札所「石手寺」など観光客や地区住民が訪れる憩いの場となっている。



道後公園



**【地域住民からみた地域の状況】**

地区の強み	地区の弱み	福祉課題
<ul style="list-style-type: none"> <li>道後温泉や道後公園などの観光資源が多い</li> <li>平坦な土地で、災害も少なく住みやすい ・治安がよい</li> <li>中心市街地に近く通勤、通学等に便利である ・駅周辺地域は交通の便がよい</li> <li>病院、スーパー、学校など生活関連施設に恵まれており、移動図書館や移動スーパーも来るなど生活に便利である</li> <li>転校生が多い地域であるが、子どもたちが溶け込みやすい環境にある</li> <li>教育熱心な地区であり、通学路の見守り活動等も盛んである</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>高齢者世帯の増加 ・空き家が増えてきている</li> <li>自力で移動できない高齢者には、交通に不便な地域が一部ある（石手白石・新石手）</li> <li>公民館、集会所の老朽化 ・集会所が少ない（駐車場が少ない）</li> <li>マンションなど、町内会に入らない世帯が増加している</li> <li>児童が遊べる公園が少ない</li> <li>災害時の避難場所が遠い地域がある ・土地の価格が高く、家賃が高い</li> <li>自主防災組織が一部団体に限られており、オール道後地区となっていない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>孤立した高齢者の増加</li> <li>高齢者は公民館、分館の階段が困難で利用しにくい（エレベーターがない）</li> <li>一部移手段の不便な地域がある（石手白石・新石手） ・住民の防災意識が低い</li> <li>自主防災組織が一部団体に限られており、災害時に連携がとれるか不安がある</li> <li>地域行事への参加者が少ない ・役員やお世話役、活動に関わる後継者不足</li> <li>マンションの増加や転勤族が多いため、近所づきあいが希薄化している</li> <li>人が集まり、活動する場所が少ない ・地域福祉サービス事業の活動がない</li> </ul>

**道後地区社会福祉協議会**

ささ あい ゆ 支え愛 湯ったり暮らせる 道後の福祉

構成団体	地区民協・小学校・中学校・高齢クラブ連合会・公民館・町内会連合会
主な取り組み	活動内容
福祉&防災 MAP の作成	地区内の社会資源やバリアフリーの整備状況など福祉分野の情報に加え、防災の視点も取り入れた MAP を作成し、地域住民の方に役立ててもらっています。
サロン交流会の開催	毎年 1 回、サロン代表者・世話人交流会を開催し意見交換を行うなど、サロン 3 ヶ所（いきいき 2、地域交流 1）の支援を継続して行っています。
福祉講座の開催	道後・湯築地区社協が合同で、毎年 2 回、高齢者の生活や健康問題などの福祉に関する講演会を開催しています。

**道後小 3 年生道後温泉入浴体験**

道後小学校と協働し、毎年 10 月頃 3 年生児童を対象に歴史的建造物である道後温泉本館において地域の歴史を学ぶとともに、公衆浴場での入浴体験を通して、地区住民や観光客とのふれあいや入浴マナーの向上を図ることを目的として、平成 24 年度から実施しています。



**<地区社協が目指すもの>**

道後地区は、道後温泉をはじめ子規記念博物館、湯築城跡のある道後公園など類をみない文化財や史跡があります。道後地区社協では「**支え愛 湯ったり暮らせる 道後の福祉**」を基本理念とし、温泉で育まれた温かさと支え合う心を大切にした福祉活動を目指しています。また、子どもや高齢者、障がい者に優しく暮らしやすいこのまちの良さを後世に引き継いでいきます。現在、取り組みが不十分な防災・減災にも対応できるよう、関係機関・団体と連携・協働するまちづくりを目指していきます。

地区の状況	■地区民協 民生委員 主任児童委員	22 名 2 名	■町内会・自治会・区長会等	27 団体
	■まち協の設立	—	■高齢クラブ	2 クラブ
		■子ども会	0 団体	
		■自主防災組織	3 組織	

平坦な土地で比較的災害の少ない地区であるため、住民の防災への意識が低くなりがちであることから、地区社協では医療・福祉だけでなく防災に関する情報を 1 つにまとめた「福祉&防災 MAP」を作成しています。また、マンションの増加や転勤族も多いことから、町内会の加入率も課題となっていますが、子どもの道後温泉入浴体験等は地域への愛着を育むだけでなく、地域活動との接点の少ない子育て世帯の保護者の耳にも必ず届くため、地域を生活の一部に感じるきっかけとして注目されています。退職後の居場所としてサロン交流会等は拠点となることから、現在の活動は次の世代につなげる礎になっているといえるでしょう。



# 地域カルテ ～地区ごとにみる地域特性～

## 『地域カルテ』とは

日常生活における不安や悩み、生活課題が複雑化する中、私たちが安心して暮らせるまちづくりに取り組むためには、まずは自分たちが生活する地域を知ることが必要です。自分たちの地域がどのような状況にあるのか、いわゆる地域の健康状態の記録(カルテ)を作成することで、その時々自分たちの地域の強みや弱みを把握するとともに、地域の魅力や課題を共有することにより、住民の地域福祉活動への参加意識の醸成と今後の活動の活性化につなげることが可能となります。今後は小地域ごとに様々な視点から、より詳細な地域分析を行い、それらをもとに地域の特性に応じたまちづくりに取り組んでいくものです。

第1	五明地区
	伊台地区
	湯山地区

第6	宮前地区
	三津浜地区
	高浜地区
	興居島地区
	中島地区

第8	浅海地区
	立岩地区
	難波地区
	正岡地区
	北条地区
	河野地区
	粟井地区
	立岩地区

第2	久米地区
	浮穴地区
	小野地区
	石井東地区
	石井西地区
久谷地区	

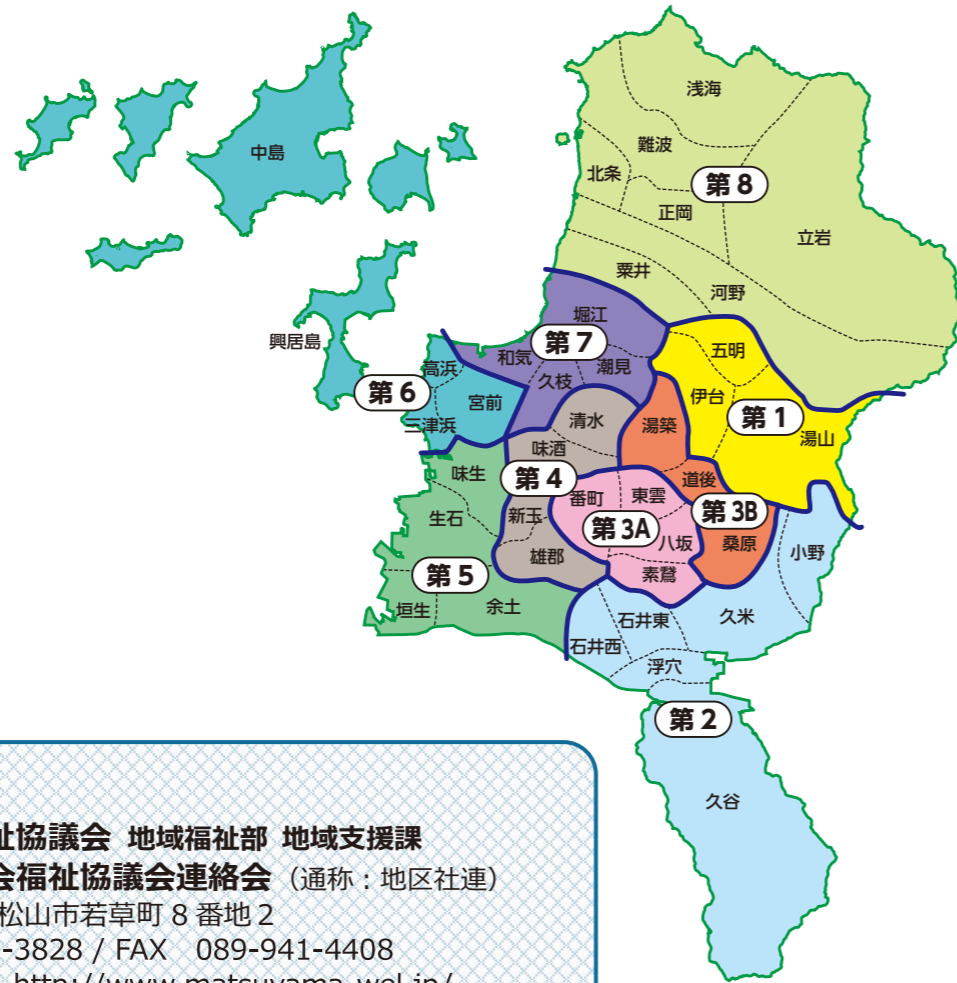
第7	潮見地区
	久枝地区
	和気地区
	堀江地区

第3A	番町地区
	八坂地区
	東雲地区
	素鷲地区

第3B	道後地区
	湯築地区
	桑原地区

第4	雄郡地区
	新玉地区
	清水地区
	味酒地区

第5	余土地地区
	垣生地地区
	生石地区
	味生地地区



発行日 平成31年3月

発行 松山市社会福祉協議会 地域福祉部 地域支援課  
松山市地区社会福祉協議会連絡会 (通称: 地区社連)  
〒790-0808 松山市若草町8番地2  
TEL 089-941-3828 / FAX 089-941-4408  
Web アドレス <http://www.matsuyama-wel.jp/>

作成 地区社会福祉協議会 / 松山市社会福祉協議会

## <『地域カルテ』の見方>

掲載情報は随時、追加・更新し、各地区の地域福祉推進に活用していきます!

### ①地区の概要

- ・面積、人口、世帯数、高齢化率は松山市地区別推計人口、また、年齢階層別人口は松山市地区別年齢別住民基本台帳登録の平成30年4月1日現在のデータを記載しています。
- ・地区の特徴は松山市公民館連絡協議会ホームページを参考にしています。

### ②地域住民からみた地域の状況

- ・研修会のワークショップや会議の意見として、地区社協関係者や民生委員・児童委員をはじめとする地域住民の方々から出された内容をまとめて記載しています。

### ③地区社協の概要と取り組み

- ・平成30年度現在の各地区社協の活動状況及び地区社協が目指すものを記載しています。

### ④地区内関係団体データ

■地区民協	平成30年4月1日現在の定数
■まち協の設立	平成30年11月1日現在の設置状況
■町内会等	平成30年度町内会等状況調査(基準日:平成30年6月1日)
■高齢クラブ	松山市高齢クラブ連合会登録数(平成30年4月1日現在)
■子ども会	平成30年度松山市子ども会連合会加入数
■自主防災組織	自主防災組織 地区別結成状況(平成30年4月1日現在)

### ⑤地域福祉推進のポイント

- ・聖カタリナ大学 教授 恒吉和徳氏をはじめとする学識経験者の皆様から地域福祉推進に向けたコメントをいただいております。

《ご協力いただいた聖カタリナ大学の先生方》

教授 田中顕悟氏、准教授 村岡則子氏、准教授 釜野鉄平氏、助教 近藤益代氏